

外国語科

田中 里美

中橋 弘高

石川 理恵

研究協力者 滝沢 雄一（金沢大学）

1. はじめに

外国語科において育成すべき資質・能力は、三つの柱から次のように整理されている。「知識及び技能」として、「外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解する」という知識とその知識を「実際のコミュニケーションにおいて活用できる」技能を身に付ける。「思考力，判断力，表現力等」として、「コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，理解したり，伝え合ったりすることができる力を養う。」「学びに向かう力，人間性等」として，「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を育成する。そして，これら三つの資質・能力は，「言語活動の中で思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて知識及び技能が習得され，学習内容の理解が深まり，学習に対する意欲が高まるなど，相互に関係し合いながら育成されることが求められている。したがって，思考・判断・表現するというプロセスが非常に重要であることがわかる。すなわち，授業において言語活動を行う際に「目的や場面，状況など」を意識し，それらに応じて，伝える考えや気持ちを整理し，論理的に伝えることが極めて重要となる。そして，相手の理解の状況を確認しながら，伝えるなど相手への配慮も不可欠といえる。

2. 探究的な活動（創造デザイン科）と教科等との関わりについて

（1）探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力

創造デザイン科とは，文部科学省から研究開発学校の指定を受け，本校が新設した教科である。「総合的な学習の時間」を創造性の育成に特化し，教科化したことが，その特徴である。創造デザイン科において，育成すべき資質能力の一つとして，「プロジェクトの経緯を整理した上で，相手に理解してもらえるように，学習内容をポスターやプレゼンテーション資料にまとめ，伝えることができる」ことを思考力，判断力，表現力等に位置づけている。また，その過程で必要となる思考ツール使用の技能についても育成すべきものとして位置づけている。これらは，先述の外国語科における「思考力，判断力，表現力等」の育成と合致するものである。したがって，外国語科の授業において，言語活動を通して育成される，思考ツールを使用する技能や，目的，場面，状況，相手に応じて内容を整理し，適切に伝える力は，創造デザイン科における探究的な活動の過程においても活用されることが期待できる。

（2）探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力を育成するための手立て

① 1年生

主に，言語活動における相手意識の明確化，及び思考ツールの活用の2つを手立てとした。第一に，言語活動を行う際に，コミュニケーションの相手として「誰か」や「外国人」など抽象的な設定にするのではなく，どのような目的で，どのような場面や状況にある人物かを具体的に設定する

ようにした。Project 2 では「日本に帰国する小学生に附属中学校の魅力をアピールする」活動に取り組んでいる（別紙参照）。自分たちの後輩になるかもしれない相手を設定することにより、学校の魅力を動画で伝えるには何をどのように伝えればいいかを生徒たちは真剣に考える。そして、同年代の相手に、海外や他校にはない独自の教科や学校行事、習慣などを、実際の道具や場所を映しながら動画で紹介する。また、本活動において伝える内容を豊かにしたり、伝える相手への理解を深めたりできるようにするために、他の単元とつながりを持たせた。Project 1 では「附属中学校のイメージに合うマスコットを提案する」活動を通して学校の特徴について考える機会とした。加えて、Lesson 5 では、アメリカの学校生活や放課後・休みの過ごし方などについて教材を通して理解した（別紙参照）。

第二の手立てとして、生徒が思考を整理しやすくするために、マインドマップ、チャート、メモなどの思考ツールを活用した。生徒自身が創造的にアイデアを出し、学校の特徴について思考を広げる際には、マインドマップを使用した。内容の概要をまとめ、共通点や違いを比較する際にはチャートを、まとめた内容の英語を整理して発表する際にはメモを活用した（別紙参照）。事前に英文を書き、暗唱するのではなく、マインドマップ、チャート、メモを使用することによって、相手に理解しやすい情報の選択や順序を考え表現することができる。また、相手を変えながら発表し合ったり、質疑応答の時間を入れたりすることで、生徒が内容を再構築することができるようにした。目的、場面、状況、相手等を具体的に設定した言語活動を通して、思考ツールを活用しながら、思考や伝える内容を整理する力を身に付けることが、外国語科の授業だけでなく、広く探究的な活動においても有効に生かされるものと考えられる。

② 2 年生

ねらいとする資質・能力は、1 時間の授業や 1 つの単元の学習だけでは、容易に身につかないため、教科書の内容や関連するトピックについて、読んだことを基にして、理解した内容を整理し、相手にわかりやすく話したり、書いたりする活動を主な手立てと考え、継続して行っている。読んだことを踏まえて話す活動については、主に次の二点が挙げられる。第一に、生徒による再話（リテリング）である。読んだ英文の内容を整理し、それを相手に分かりやすく伝えるために、話の概要や順序を考え、それを適切な語彙を選択して表現することが必要になる。現段階では、発信語彙として定着している語彙数が限られているため、キーワードや英文の概要を表すイラストを補助として用い、個々の運用能力に合わせて取り組んでいる途上である。第二に、登場人物のその後の発言や行動、後に続くストーリーについて自身の考えをまとめ、それをペアまたはグループで伝える活動や、読んで理解した内容に関する簡単な意見交換（ディスカッション）である。これらを行う際にも、読んで理解した英文の内容を整理し、それを限られた語彙数の中で相手がわかりやすいように工夫して発信する。発信した内容や表現について、意見交換し、相手を変えてさらに話し合う機会を持つ。この過程を経て、考えなどを形成・再構築し、ねらいとする資質・能力の育成を図っている。例えば、Lesson 4 では登場人物のケイトが夏休みにオーストラリアに帰省した際の様子について、もう一人の登場人物の陸と話す対話文を読み、その後の二人の発言やストーリーを予測した。これらについて、考えをまとめ、根拠を添えてペアやグループで伝え合うことによって、ねらいとする資質・能力の育成を図った。

読んだことを踏まえて書く活動については、英文の筆者に対して質問や意見を手紙や電子メールを書く活動を行っている。これらの活動に取り組む際にも、コミュニケーションを行う目的や場面、

状況を明確化する必要がある。それにより、どのような語彙を使って表現をすればよいのかを意識したり、表現するために自分の伝えたい内容を整理したりことなどにつながる。そして、生徒はテキストの細部まで注意深く読む力に加え、探究的な活動に生かされる資質・能力が育まれると考える。例えば、Lesson 1 では、登場人物のブラウン先生が書いたおすすめ英語の本を紹介する記事に対して、生徒一人ひとりが記事を読んだ感想や、紹介したい本について電子メールで返信する英文を書く活動である。記事の構成を踏まえて、返信する電子メールの内容を考え、アイデアを練ることを通して、ねらいとする資質・能力の育成を図った。

③ 3 年生

主に相手意識、場面設定を明確にすることにより、相手に伝える内容を整理し、相手に伝わりやすい表現方法を考えることができるような活動を継続的に取り入れている。

まず、相手意識を持つことは、何かを相手に提案したり勧めたりする際に非常に重要な条件といえる。そのため、活動前には相手の年齢や好み、感情の情報を生徒に与えたり、気づかせたりしている。Project の活動のようにあらかじめ伝える相手が設定されているものもあれば、教科書の登場人物をコミュニケーションの相手として設定することもある。生徒たちに相手意識を持たせることで、相手のニーズに応えようとするだけでなく、相手を意識した表現を自ら考え選択することにもつながっている。

次に、場面設定である。出来事の場面やその状況を具体的に設定することで、相手に伝えるべき適切な内容を考えさせることができる。Lesson 2 「初来日した外国人におすすめの石川県の方言を紹介しよう」という活動では、初来日の相手に伝えるべき情報は何か、そして相手に使ってもらえるために伝えたらよいことは何かなど、生徒たちは相手に伝えるべき情報を吟味し選択していた。

さらに、相手に伝える内容を整理し、相手に伝わりやすい表現方法を考える活動を行った。生徒は、まず自分自身で内容をまとめ、それをペアに伝え、簡単な質疑応答を行う。ペアとのやり取りから気づいた不十分な情報について再考し、よりまとまりのある内容に仕上げようと努めていた。内容を理解してもらうために必要な情報や構成について考えることができていた。

学年が上がるに連れて、表現の幅が広がり生徒たちは適切な表現を選択したり、相手に理解してもらうための工夫を凝らしたりすることができるようになってきている。相手を明確にした活動を3年間継続して行うことによって、創造デザイン科における探究活動においても、それらの力が活用されることが期待できる。

3. 参考文献

- 1) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）

1 年 単元名「Lesson 5 School Life in the U.S.A.」単元計画（9 時間）

次	時	学習内容・ねらい（■）主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3 観点【 】指導上の留意点（・）
1	1	■アメリカと日本の学校生活を比較する。～授業編～ ①写真や表から、日米の学校生活（持ち物、授業、教室等）の違いを見つける。 ②日米のどちらの授業スタイルがいいか伝え合う。	・日本との違いが明確にわかるよう、アメリカの実物の教科書や時間割の例を提示する。 ・写真や資料映像などから、日米の違いをチャートにまとめるよう伝える。
	2	■アメリカと日本の学校生活を比較する。～昼食・行事・掃除編～ ①写真から日米の学校生活（昼食、行事、掃除）の違いを見つける。 ②日米のどちらのスタイルがいいかを伝え合う。	・教科書に記載のない行事や掃除などについても触れる。 ・写真を指しながら英語で読むよう伝える。 ○どちらがいいかを、理由を入れて即興で伝え合おうとしている。【態】
	3	■何をしているかを当てるクイズをする。 ①現在進行形の文を復習とドリル練習をする。 ②何をしているかを効果音、ジャスチャー、写真等から推測して質疑応答する。	○現在進行形の用法を理解して、英語でやり取りしようとしている。【知】
	4	■アメリカと日本の放課後の過ごし方を比較する。 ①リサのメール文から、アメリカの放課後の過ごし方の概要を読み取り、チャートにまとめる。 ②リサに、自分の放課後の過ごし方を伝える返信メールを書く。	○アメリカに住む中学生からのメールを読んで、大まかな内容を読み取ることができる。【知】
	5	■アメリカの休みの過ごし方を調べて話し合う。 ①アメリカのボランティアとスポーツの特徴がわかる映像を視聴し、日本との違いを理解する。 ②アメリカの週末や長期休暇の過ごし方の違いなどをグループで共有する。 ③なぜ日米でこのような違いがあるかを話し合う。	・タブレット端末を活用して、学校生活以外の休みの日の過ごし方を自分で調べる。 ・調べてわかった内容をメモで整理する。 ○日本とアメリカの違いを即興で伝えようとしている。【態】
	6	■アメリカの中学生宛てに、日本の学校を紹介するメールを書く。 ①アメリカにはない日本の学校の特徴を1つ選ぶ。 ②モデルを参考に、書く内容をメモで整理する。 ③グループで写真を見せながらやり取りする。 ④写真を添付したと仮定して、メール文を書く。	○伝わりやすい構成と内容になるよう工夫できている。【思】 ・事前にタブレット端末で撮影した関係する写真を提示して紹介する。 ・メールのレイアウトの枠の中にメール文を書くよう伝える。
	7	■映画の予告編を聞いて自分の意見を伝える。 ①映画の予告編のあらすじをまとめる。 ②どちらの映画を見たいかを理由を基に伝え合う。	・はじめに実際の映画の予告音声や動画を視聴することで、内容に興味を持たせる。
	8	■相手の好みを聞いて提案する対話を創作する。 ①店員とお客との対話から好みを話したり提案する表現を学び、口頭練習する。 ③相手の好みに合わせて提案する対話を考える。	・店員とお客の立場を理解して、ロールプレイができるよう支援する。 ・対話の場面や状況をペアで話し合った後に、対話を考えることを伝える。
	9	■単元のまとめと振り返りをする。 ①学習した内容を、写真を基にリテリングする。 ②単元の小テストをアンケート作成ソフトで行う。	・アンケート作成ソフトによる生徒の解答をその場で提示し、間違いやすい箇所を共有する。

1 年 単元名「Project 2 英語のスクールガイドを作ろう」単元計画（10 時間）

次	時	学習内容・ねらい（■）主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3 観点【 】指導上の留意点（・）
1	1	■プロジェクトの目的を理解し、日米の学校ホームページの違いについて考える。 ①帰国生入試とその課題を知る。 ②日米の学校ホームページの違いをあげる。 ③アメリカの学校ホームページにある PR 動画を視聴し、紹介するアイデアを広げる。	・日米の学校ホームページ（HP）の違いや良さに気づかせ、動画と学校 HP（ガイドブック）について作成することを伝える。 ・マインドマップで思考を広げる。 ○学校についての自分の考えを伝えようとしている。【態】
	2	■帰国生の立場で、附属中学校について話し合う。 ①帰国生が日本の中学校に入学するにあたり、どのような不安があるかを想像する。 ②グループでアイデアを共有し、PR 動画で伝えたいと思うことを話し合う。 ③グループで伝える項目を 3 つに絞り理由をあげる。	・帰国生の立場で、どのような情報が大切かを考え、マインドマップに言葉を書き加える。
	3	■附属中学校の魅力を伝える発表メモを考える。 ①生徒から出た 10 の項目をグループに割り当てる。 ②PR 動画の紹介にふさわしい内容をさらに絞る。 ③発表メモをグループで作成する。	・事前に生徒から出た項目を 10 項目に集約しておく。 ・原稿ではなく、発表メモをグループ全員で作成する。
	4	■学校 PR 動画の内容の構想を話し合おう。 ①同じグループの人と情報交換する。 ②校舎内外の撮影場所と演出を考える。 ③PR 動画の分担をグループ内で決める。	・内容にふさわしい校舎内外の場所・演出を考え、他の人との共有後に、修正してもよいことを伝える。 ○学校の魅力を伝え合っている。【思】
	5	■撮影動画がより良くなるように改善しよう。I ①過去の先輩が作成した動画を視聴する。 ②教室内で撮影リハーサルをする。 ③端末で撮影し、動画を見て改善点を話し合う。	・端末内にある動画の編集アプリを使用してよいことを伝える。 ○学校の魅力を効果的に伝えようとしている。【態】
	6	■撮影動画がより良くなるように改善しよう。II ①前時を受けて、グループで練習をする。 ②音声入力機能を使って個人で発音練習をする。	・個別に発音を点検する機能を使って練習する。
	7	■校舎内外の場所で動画の撮影をする。 ①撮影の注意点を確認する。 ②ALT に英語の最終確認をしてもらう。 ③撮影場所へ出向き、端末で撮影する。	・動画の編集作業や提出は、ICT 機器操作が得意な生徒を中心に行う。
	8	■学校 PR 動画を視聴して大賞を決める。 ①全ての PR 動画を視聴して投票する。 ②ALT が選んだ大賞と理由を発表する。	・生徒の投票結果は、授業後半にスクリーンで提示する。
	9	■魅力的な学校 HP(スクールガイド)を作成する。I ①日本国内の英語の学校 HP を読む。 ②HP のレイアウトと構想を考え、原稿を作成する。	・作成した PR 動画の内容と前回のプロジェクトで決まった学校マスコット等を活用するよう伝える。
	10	■魅力的な学校 HP(スクールガイド)を作成する。II ①ALT に原稿を添削してもらう。 ②正しい英語で端末上に HP を作成する。	○学校の魅力が伝わるように書いている。【思】

次	時	学習内容・ねらい（■）主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3 観点【 】指導上の留意点（・）
1	1	■単元の目標を理解するとともに、夏休みの思い出について伝え合う。 ①夏休みの思い出に浮いてペアで伝え合う。 ②教師のモデルを聞き、その後、SVOO や SVOC の特徴やきまりを簡単に確認する。 ③自己目標を設定する。	
	2	■教科書の対話文を読み、内容に関する自分の考えをペアで伝え合う。 ①本文を読む前に質問を聞き、内容を予想する。 ②予想が合っているかどうか本文を読んで確認する。 ③本文の内容とその内容から予測される登場人物の発言をペアで伝え合う。	・英語が苦手な生徒に対し、場面絵を示すとともに、音声で足場架けを行う。 ・挿絵や登場人物に関するこれまで得た情報から、発言の内容の裏付けを持つように指示する。
2	3	■教科書本文から必要な情報を読み取り、読み取った内容を伝え合う。 ①本文を読む前に質問を聞き、内容を予想する。 ②予想が合っているかどうか本文を読んで確認する。 ③本文を読んで、登場人物にどんな質問をするかペアで伝え合う。	・英語が苦手な生徒に対し、場面絵を示すとともに、音声で足場架けを行う。 ・挿絵や登場人物に関するこれまで得た情報から、発言の内容の裏付けを持つように伝える。
3	4	■教科書本文の要点を捉え、書き手の最も伝えたいことを伝え合う。 ①本文を読む前に質問を聞き、内容を予想する。 ②概要を捉えるために、本文の内容を表にまとめる。 ③要点だと判断した根拠となる英文を選ぶ。	・ピクチャーカードを提示し、生徒の理解を補う。 ・要点を捉えるために、各段落にタイトルを付けて比較する。
	5	■教科書本文を読んで、概要や要点を捉え、自分の考えを伝え合う。 ①内容をまとめた表を基に、ガイドブックをまとめ直す。 ②個々でまとめたガイドブックについて複数のペアと伝え合う。 ③伝え合ったことを踏まえ、自分の考えを再構築し、その内容を書く。	・読み手を定めることによって、情報の。 ・ガイドブックの読み手を想定し、要点だと判断した英文とそれを選んだ理由について伝え合う。 ○読み手が必要とする情報をまとめるために、英文の概要・要点を捉えようとしている。【態】 ○読み手が必要とする情報が掲載されたガイドブックを作るために、英文の概要、要点を捉えている。【思】
4	6	■夏休みの思い出についてメッセージムービーを作る。 ①教師のモデルを聞いて要点を捉える。 ②第3次までに学んだことを踏まえ、聞き手	・土産に同封したメッセージムービーの設定とすることで、ターゲットとなる言語材料を用いる機会を設ける。

		に伝わるよう工夫してスピーチの原稿を練る。	
7	■SVOO や SVOC などを正しく使いながら、ALT に夏休みの思い出についてのメッセージムービーを撮影する。 ①ペアになり、相手を ALT にみたてて、スライドを使いながら説明する。 ②一人一人が ALT に夏休みの思い出について説明する。 ③自己目標の達成状況等を振り返り、次の課題を明らかにする。	・伝え合ったことを踏まえ、使用語彙や考えを再構築し、その内容に修正する。 ○夏休みの思い出について SVOO や SVOC などを用いて話す技能を身に付けている。【知】	

次	時	学習内容・ねらい (■) 主な活動等 (丸数字)	評価規準 (○) 3 観点【 】指導上の留意点 (・)
1	1	■インドにおける多言語状況についての内容を捉える。 ①資料映像や教師による補足情報を聞いたり, 本文を読んだりして内容を捉える。 ②文脈の中で受け身 (現在形) の形・意味を理解する。	○多言語国家であるインドに関して, 英文から情報を得ようとしたり, 自分の言葉で伝えようとしたりしている。【態】 ○文脈の中で新出の語や文法を理解している。【知】
	2	■受け身 (現在形) を場面に応じて使用し, 伝えたいことを英語で表現することができる。 ①ペアでのやり取りを通して, 受け身 (現在形) の表現を練習し, 用法を理解する。 ②インドの多言語状況についての情報を整理し, 自分の言葉で伝える。	○情報を整理し, 自分の言葉で伝えることができる。【思】
	3	■映画業界における多言語状況についての内容を捉える。 ①資料映像や教師による補足情報を聞いたり, 本文を読んだりして内容を捉える。 ②文脈の中で受け身 (過去形) の形・意味を理解する。	
	4	■受け身 (過去形) を場面に応じて使用し, 伝えたいことを英語で表現することができる。 ①ペアでのやり取りを通して, 受け身 (過去形) の表現を練習し, 用法を理解する。 ②映画業界の多言語状況についての情報を整理し, 自分の言葉で伝える。	○情報を整理し, 自分の言葉で伝えることができる。【思】
	5	■多言語化に至ったインドの歴史について内容を捉える。 ①資料映像や教師による補足情報を聞いたり, 本文を読んだりして, 本文の概要を捉える。	
	6	■インドの多言語化について簡単な英語で説明する。 ①本文の情報を整理する。 ②必要な情報を考え, 言語別に説明する。	○情報を整理し, 自分の言葉で伝えることができる。【思】
2	7	■クラスメイトが使ってみたいと思えるような石川県の方言について内容を考える。 ①例を参考にし, 相手に理解してもらうために必要な表現を考える。	○相手に理解してもらえ工夫を取り入れ, よりよい内容にまとめようとしている。【態】
	8	■相手や場面に適した内容を考える。 ①意味や, 使用場面, 使い方の例についての説明文を考える。 ②相手を意識し, 伝える内容や文章の構成を考える。	
	9	■ペアにオススの方言を伝える。(パフォーマンステスト) ①まとめた内容をペアに伝え, 簡単な質疑応答を行う。 ②ペアとのやり取りから気づいた不十分な情報について再考し, 必要な情報を追加する。 ③別のクラスメイトとペアになり, ①②を繰り返す。 ④個々に発表内容を撮影し, 動画を提出する。	○聞き手に伝わりやすい内容を考えながら, 自分の考えを英語で話すことができる。【思】 ・ペア活動時と撮影時に使用するメモ用紙を配布し, キーワードやフレーズだけで活動させる。
	10	■レポートにまとめる。 ①内容を理解してもらうために必要な情報や構成を考え, レポートにまとめる。	○読み手に伝わりやすい内容を考えながら, 自分の考えを英語で話すことができる。【思】

次	時	学習内容・ねらい（■）主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3 観点【 】指導上の留意点（・）
1	1	■外国人観光客が食べたいと思えるような石川県限定のパフェについて内容を考える。 ①好きな石川県の食材や組み合わせについてペアで話し、アイデアを出す。 ②最もよいアイデアを選び、魅力が伝わる説明の仕方について考える。	○相手に理解してもらえる工夫を取り入れ、よりよい内容にまとめようとしている。【態】
	2	■相手を意識し、伝わりやすい内容や表現を考える。 ①例を参考にし、伝える内容や文章の構成を考える。 ②相手の興味を引くことができる説明を考える。 ③相手に理解してもらうために必要な表現を考える。	○聞き手に伝わりやすい内容を考えながら、自分の考えを英語で話すことができる。【思】 ・ペア活動時と撮影時に使用するメモ用紙を配布し、キーワードやフレーズだけで活動させる。
	3	■考案した内容をペアに伝える。（パフォーマンステスト） ①まとめた内容をペアに伝え、簡単な質疑応答を行う。 ②ペアとのやり取りから気づいた不十分な情報について再考し、必要な情報を追加する。 ③別のクラスメイトとペアになり、①②を繰り返す。 ④個々に発表内容を撮影し、動画を提出する。	○聞き手に伝わりやすい内容を考えながら、自分の考えを英語で話すことができる。【思】 ・ペア活動時と撮影時に使用するメモ用紙を配布し、キーワードやフレーズだけで活動させる。